

## 参考資料/昨年の内容

カレーオブザイヤーの開催をご理解いただけるよう、前回（2020年）の様子をお伝えいたします。

### 【前回「カレー・オブ・ザ・イヤー2020」の様子】

1月22日のカレーの日、よみうりカルチャー恵比寿で「カレー・オブ・ザ・イヤー2020」が開催された。東京オリンピック・パラリンピックの開催も控え、ひと粒が万倍になるという一粒万倍日にあたった「カレー・オブ・ザ・イヤー2020」。どんなカレーが選ばれたのか期待が高まる。



### 「カレー・オブ・ザ・イヤー2020」表彰式で 今年注目のカレーが全国から大集結！

1月22日のカレーの日、よみうりカルチャー恵比寿で「カレー・オブ・ザ・イヤー2020」が開催された。会場は、カレー通の一般客、企業、メディア取材が集まり大盛況。第1部は、カレー総合研究所代表取締役でカレー大学学長でもある井上岳久氏の特別講演「カレートレンド最新事情」から始まった。

外食としては「新・カレー専門店」の飛躍が挙げられた。これは2001年以降に開店したカレー専門店を称したもので、この5年で全国約500店舗にのぼる。その形態も様々で、酒場の空き時間に間借り営業するヤドカリ方式も存在する。また、大手メーカーが専門店名のレトルト商品を販売し、売り上げ好調。スパイスに興味を持つ人が増えたのが、継続したブームの要因になっているようだ。



内食としてはカレパ(カレーパーティ)のブームが起こった。スパイス好きの間で頻繁に行われ、海外の人にも喜ばれるとのこと。これが2020年は一般の家庭にも浸透するのではと予想した。その他、オリンピックイヤーでアスリートにどう絡めていくか。



世界中から人が集まる2020年を迎えて各国のカレーに興味を示す人が増加。著書の「カレーの世界史」が増刷を重ね売れているそうだ。続いてカレー界を牽引する名店「デリー」の田中社長と、「カレーパン通信」の編集長でもあるものまね芸人ニッチローさんが登場。2020年の動向を激論した。



第2部は、ニッチローさん司会の表彰式。スパイスの研究を重ねたカレー大学の1,000人を超える卒業生の推薦をもとに、カレー業界に携わる人々の審査により10部門のカレーが発表された。

### 1. カレールウ部門「ワンプロキッチン特製カレー」(エスピー食品株式会社)

肉を加えればOKのほぼ完成しているカレー。新分野を切り開き、これまでの2倍以上の売れ行きを誇った。今朝、このカレーを作り、試験前の娘さんに食べさせて見送ったという担当者さん。ニッチローさんから絶対合格というお墨付きを得た合格カレー！ドン・キホーテなどでは、ゴールデンカレーが観光客にお土産として売れているそう。



### 2. レトルトカレー部門「選ばれし人気店シリーズ3品」(ハウス食品株式会社)

新・カレー専門店ブームで記録的な売れ行き。ブームの最先端に行くカレー。ニッチローさんはこのレトルトカレーを食べてから専門店に足を運んだそう。そういう人が今年も増えそうだ。表彰式には、グラビアアイドルの真奈さん(左)とタレントでプロレスラーのうなぎひまわりさんがプレゼンターとして登場。会場に華を添えた。



### 3. カレーパウダー部門「味付きカレーパウダー パーモントカレー味」(ハウス食品株式会社)

「辛い」のキーワードでブレイク。子どもからシニアまで全世代から支持を得て、発売から2カ月で売り上げ目標の2倍を記録。これを使うと料理が劇的に美味しくなり、カレーメニューの幅が広がる。



### 4. 外食カレー部門「新・カレー専門店」(全国の店舗すべて)

### 5. ご当地カレー部門「黒豚を美味しく食べるカレールウ」(株式会社七呂建設)

鹿児島県の建設会社が黒豚にあうカレーを調合。ショールームなどの販売だけで10,000個突破した。

### 6. カレー関連飲食部門「ステーキカレーパン」(パンパティ)

カレーパンで異例のギネス認定。昨年5月に8時間で5,947個を販売した。メディアでも話題で、カレー界に大きな発展をもたらした。

ステーキがぎっしり詰まったカレーパンは、肉が柔らかくスパイスとよく馴染んでいて絶妙なおいしさ！今年も期待できそうな店主の力強い目が印象的。



### 7. 新規事業部門「クレーンゲームコーナー／カレーキャッチャー」(エブリデイ東京／株式会社)



社東洋

世界一のクレーンゲーム台数でギネスを誇る店舗に、業界最大規模の「カレーキャッチャー」を開設。入手困難な「ご当地カレー」と野菜の材料からゲットする「カレーハンター直送カレーキャッチャー」を企画。半年で5万人がチャレンジし、累計獲得数1万個を超え。社員がカレーを学び、ご当地カレーを導入するなど工夫して「カレーキャッチャー」を開設した。アイデアを次々だして、社長自ら楽しさを追求する姿に勢いを感じた。オリンピックイヤーにむけ、さらなる活動に目が離せない。

### 8. 企画部門「飲むカレー CARRY CURRY」(株式会社フェリシモ)

### 9. 社会貢献部門「げんきカレー糧原店」(みらいチケット)

奈良県で展開。カレーで世のために活動し、善意で人を繋ぐ「みらいチケット」という独自のシステムを考案。社会貢献活動を実施する。

受賞者  
談/1食200円で中学生までは100円。200円のみらいチケットを購入した人はそれをボードに



貼り、そのチケットを使って食べられる。動画もあり再生回数397万回。カレーは価格的に子どもが気軽に外食できないため、100円で提供している。学習塾を16年続けてきた店主が元気カレーを始めて2年。身近なところで子どもを見つめ続けてきた店主の格差をなくしたいという思いからはじまったそう。ボランティアの学生が子どもの宿題をみってくれるなど、みんなの協力がここに伝わった。

### 10. 特別賞(カレー大学健闘)部門「ガスの助カレー」(小田原ガス株式会社)

### 「グルテンフリー米粉カレー」(増田製粉株式会社)

最後に井上代表より挨拶。「昨年の活動を表彰したカレー・オブ・ザ・イヤー2020。今年は東京オリンピック・パラリンピックがあり、カレーを作って盛り上げていきたい」。専門家の生の声が沢山聴ける貴重な機会だった。お腹も刺激され、すっかりカレーの口になって会場を後にした。



(注意) 上記は昨年のもので、本年に関しては授与式は開催いたしません。